

相談支援従事者初任者研修 たたき台

初任者研修

| | |
|------|---|
| 獲得目標 | ソーシャルワークとしての障害者相談支援の概要を理解し、他者に説明することができる。 障害者ケアマネジメント、サービス等利用計画作成に関する実務を理解し、一連の業務ができる。 |
|------|---|

| | |
|--------|---|
| 研修の進め方 | 事前学習 講義 演習 事前課題 演習 演習時は必ず現任研修修了者以上によるファシリテーターを一名配置する。 演習における標準的なグループ人数は6名を想定している。 |
|--------|---|

| | |
|------|--|
| 事前学習 | 「その他基礎知識・関連知識」 ○障害者総合支援法及び障害福祉関連制度、各障害の特性について、テキストによる事前学習 ○学習後自己評価表を研修開始時に提出 |
|------|--|

| | | | | | | | |
|----|-----|------------------------------------|-------------------------------|-----------------------|---------------------|------------------------|--------------|
| 講義 | 1日目 | 項目 講義1 「相談支援とは」 (相談支援の概要) | 2h 障害者総合支援法・関連法の動向 | 1h 相談支援の基本姿勢・価値・倫理 | 1.5h 意思決定支援と権利擁護 | 1.5h ケアマネジメント概論 | |
| | 2日目 | 項目 講義2 「相談支援の実際」 | 2h 面接・インテーク (意思決定支援を含む) | 1h アセスメント | 1h サービス等利用計画の作成 | 1h 他機関、多職種連携、サービス調整 | 1h モニタリング |

| | | | | | | | |
|-----|----------------|----------------------------|---|---|---|--|--|
| 2日間 | 3日目 (演習1日目) | 項目 演習1 事例研究1 <モデル事例> | 6h ○インテーク・アセスメント 本人中心の支援、関係性の構築、本人の「人となり」の理解 ・モデル事例のインテーク情報からアセスメントの実施 ・グループ討議の中に ストレングス、 権利擁護や意思決定支援の視点を盛り込むよう配慮する。 | | | | |
| | 4日目 (演習2日目) | | 3.5h ○ゴール設定とプランニング<地域資源へのアクセスと活用> ・サービス担当者会議の模擬演習を含む サビ管中心に他機関等との連携 | 1.5h ○モニタリング <ゴールの変化、他機関連携、連続・変化するアセスメント> | 1h ○演習2・3の実施についてのガイダンス ・インターバル中の課題実施及び提出についてのガイダンスを実施 | | |

事前課題実施のための一定期間(1カ月)のインターバル 事例資料作成 課題提出

| | | | | | | |
|-----|----------------|-----------------------------|---|----------------------|---|--|
| 5日間 | 5日目 (演習3日目) | 項目 演習2-1 実践研究1 <提出課題> | 3.5h ○ケース共有と検討 ・事前課題で作成した事例情報、アセスメント結果、支援方針等について、グループ毎に共有および検討を実施 1名あたり30分を想定。 | 項目 演習3-1 地域資源と協議会 | 2.5h ○地域の資源と協議会 ・事前課題で作成した地域資源整理票により、グループ毎に各受講者の地域資源についての把握およびつながり状況についてを確認する | |
|-----|----------------|-----------------------------|---|----------------------|---|--|

課題実施のための一定期間(1カ月)のインターバル モニタリング実施 事例資料作成 課題提出

| | | | | | |
|----------------|-----------------------------|--|------------------------------------|---|--|
| 6日目 (演習4日目) | 項目 演習2-2 実践研究2 <提出課題> | 3.5h ○ケース共有と検討 ・演習2-1で共有した事例のその後の取組状況について、グループ毎に共有および検討を実施 1名あたり30分を想定。 | 項目 実践研究3 演習2-3 <提出事例から1事例選出> | 2.5h ○モニタリング後の提出事例を深める ・モニタリングからのアセスメント再検討より支援の検討 | |
|----------------|-----------------------------|--|------------------------------------|---|--|

| | | | | | |
|----------------|-----------------------------|--|----------------------|--|---------------------------------|
| 7日目 (演習5日目) | 項目 演習2-4 実践研究4 <提出課題> | 3.5h ○(サービス等利用)計画を作る 自分の地域を想定して地域資源を入れた計画を検討 | 項目 演習3-2 地域資源と協議会 | 2.5h ○地域の資源と協議会(の活用) 不足資源や地域づくりについて協議会実践を通して学ぶ | 項目 0.5h ○研修全体を通しての振り返りを実施 |
|----------------|-----------------------------|--|----------------------|--|---------------------------------|

相談支援従事者現任研修 たたき台

現任研修

| | |
|------|--|
| 獲得目標 | <p>相談支援の基本的業務を確実に実施できる。【生きがいや自己肯定感を高める支援（ストレングス）、意思決定支援など相談支援の技術と能力の獲得】</p> <p>チームアプローチ（多職種連携）の理論と方法を学び、実際の事例においてチームアプローチを用いて支援できる。【チームアプローチ（多職種連携）を実践するための技術と能力の獲得】</p> <p>コミュニティワーク（地域とのつながりやインフォーマルサービスの活用、社会資源の開発等）の理論と方法を学び、実際の事例においてコミュニティワークを行うことができる。【地域に即した相談支援の実践力の獲得】</p> <p>～ について支援の妥当性を得るためグループスーパービジョンの理論と方法を学び、実際の事例を用いてグループスーパービジョンを実施することができる。</p> |
|------|--|

| | |
|--------|--|
| 研修の進め方 | <p>事前課題（ ） 講義 セルフチェック 演習 事例検討（スーパーバイズされる体験）</p> <p>*演習は全員が司会を行う。（ファシリテーションもしくは担当者会議における司会進行の技術獲得が目的）</p> |
|--------|--|

| | 項目 | 1.5h | 1.5h | 1h | 1h | 1h |
|-----|----|---------------------|-------------|------|----------|-----------|
| 1日目 | 講義 | 福祉制度の動向（地域生活支援事業含む） | スーパービジョンの理論 | 相談支援 | チームアプローチ | コミュニティワーク |

*業務の振り返り

| | 項目 | 講義（9:00～10:00） | 演習10:00～12:00） | 事例検討・GSV（13:00～17:00） |
|-----|------|---|---|---|
| 2日目 | 相談支援 | <p>講義</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談支援のプロセス 相談支援の中で、信頼関係の構築、生きがいや自己肯定感を高める支援、意思決定支援などがどのように進められるかを確認 | <p>（セルフチェック）</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義内容に留意し、相談支援のプロセス、信頼関係構築、生きがいや自己肯定感を高める支援、意思決定支援について自己検証を行う。 <p>（演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> セルフチェック表を元に自己のできていた点、できていなかった点を報告し、メンバーから意見を求める。 | <p>事前提出された実践事例に対して事例検討を行う。ここでは支援経過が分かるよう相談支援の内容を時系列にまとめ、報告する。検討のポイントは、信頼関係、生きがいや自己肯定感を高める支援、意思決定支援の妥当性検証する。</p> <p>*標準グループは6名</p> |

*業務の振り返り

| | 項目 | 講義 | （セルフチェック） | 事例提出された実践事例に対して、多職種連携について検討する。特に、障害者の高齢化について意識し、介護支援専門員との連携方法や、地域包括支援センターとのつながりなどを検討する。 |
|-----|-----------------|--|--|---|
| 3日目 | チームアプローチ（多職種連携） | <p>講義</p> <ul style="list-style-type: none"> 本人中心、チームにおける役割分担、情報の共有、担当者会議の手続き手順について チームアプローチにおける相談支援専門員の立ち位置 多職種が連携することの意味と、ニーズの捉え方の違い、共通目標を立てることの必要性 | <p>（セルフチェック）</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義内容に留意し、チームアプローチにおける役割分担、情報の共有、担当者会議の手続き手順、相談支援の立ち位置、共通の目標を立てることの必要性について自己検証を行う。 <p>（演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> セルフチェック表を元に自己のできていた点、できていなかった点を報告し、メンバーから意見を求める。特に、地域包括支援センターや介護支援専門員とのつながりを意識する。 | |

*業務の振り返り

| | 項目 | 講義 | （セルフチェック） | 事前提出された実践事例に対して事例検討を行う。ここでは、ストレングスモデルによるGSVを行い、本人のストレングスに対してインフォーマルサービスの活用などの柔軟な支援方法を検討する。 |
|-----|-----------|--|---|--|
| 4日目 | コミュニティワーク | <p>講義</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別課題を地域課題として捉え、自立支援協議会に報告するプロセスや、協議会の機能や役割、運営方法について 地域住民の理解促進、インフォーマルサービスの把握と活用方法 地域診断 | <p>（セルフチェック）</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義内容に留意し、課題を地域課題として協議会に報告するプロセス、協議会の役割、地域住民との理解促進を通してのつながり、などの自己検証を行う。 <p>（演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> セルフチェック表を元に、自己のできていた点、できていなかった点を報告し、メンバーから意見を求める。また、自身の自立支援協議会の運営状況、協議会を通して工夫されたこと・新たなサービス、地域支援事業の実施状況等について報告し、それぞれが地 | |